

# 六ツ門図書館展示コーナー

## 戦後80年 平和資料展

「8・11久留米空襲を語りつなく」

会期：令和7年7月19日（土）

～9月7日（日）

令和7年は、終戦から80年の節目にあたります。久留米市では、昭和20年（1945）8月11日、久留米空襲により市街地は焦土と化し、214人もの尊い命が奪われました。年々戦争を体験された方が少なくなる中、この史実も風化しつつあり、「戦争は外国の話」「もし戦争になっても戦うのは兵士だけ」など、自分には関係ないと考える人が増えているとも言われます。

この節目の年に「8・11久留米空襲を語りつなく」と題して、《軍都・久留米》《銃後の暮らし》《8・11空襲、その時》という構成で戦時下に暮らす人々にスポットを当てた展示会を開催しました。

《軍都・久留米》では、軍司令部の写真、国民学校の教科書、「主婦

の友」「婦人倶楽部」などを使って、戦時下で国民の思想統制や戦争への協力体制が整えられていった事を伝えました。



展示会場の様子

《銃後の暮らし》では、軍需物資の献納や金属回収の写真、衣料切符などで物資不足を、勤労奉仕の絵葉書や学徒腕章で人手不足により中等学校以上の生徒は工場などで働いた事を紹介しました。また、「昭和のおうち」には国民服や防空頭巾、

〒830-0031 久留米市六ツ門町3-11  
くろめりあ六ツ門5階  
TEL: 0942-27-9281  
FAX: 0942-27-7281

雑糞やリュックサックを置いて戦時中の住まいを再現しました。その他招集令状や出征時の写真、予科練の制服も展示しました。



戦時中の住まいを再現した「昭和のおうち」コーナー

《8・11空襲、その時》では、B24爆撃機の進路、焼夷弾の模型、焦土と化した市街地の写真、焼けた瓦やガラス片、犠牲者の体内に残された「二つの弾片」を展示。空襲の恐ろしさや爆撃の威力を視覚に訴えました。当時13歳の少年の日記「軍

国少年日記」の8月11日のページには、空襲を受けた時の緊迫した様子が綴られており、熱心に読まれる来場者の姿も見られました。

会場では、戦争体験者の方の証言DVD上映も行い、来場者から「実際に体験された方の言葉は、スツと心に響く」との声もいただきました。

「平和を願う千羽鶴」を折るコーナーも設け、多くの方に折っていただいた折鶴は3000羽近くになり、会期終了後、長崎原爆資料館へ寄贈させていただきました。来場者には親子連れも多く、「改めて戦争の怖さを感じた」「平和を守る事の大切さについて考える機会になった」などの声が聞かれました。



来場者に折っていただいた「平和を願う千羽鶴」